

令和7年度第2回松伏町総合教育会議 会議録

開催日時	令和8年2月18日（水） 午後3時30分から午後4時40分まで	
会議会場	松伏町役場 第二会議室	
出席者氏名	構成員	松伏町長 高野 祐大 松伏町教育委員会教育長 谷ヶ崎 均 松伏町教育委員会教育長職務代理者 渡邊 淳子 松伏町教育委員会教育委員 會田 隆 松伏町教育委員会教育委員 増田 芳彦 松伏町教育委員会教育委員 池田 千恵美
	事務局等	企画財政課長 鈴木 英樹 企画財政課主幹 中村 勝利 企画財政課主任 福永 将人 教育総務課長 坂寄 秀彰 教育総務課主幹 倉持 孝弘 教育文化振興課長 小滝 文人
欠席者	なし	
傍聴人	なし	
次第 (協議又は調整が行われた事項)	1 開会 2 町長挨拶 3 教育長挨拶 4 協議・調整事項 (1) 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査結果について 5 閉会	
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度第2回松伏町総合教育会議次第</li> <li>令和7年度第2回松伏町総合教育会議出席者名簿</li> <li>資料1 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査結果</li> <li>松伏町総合教育会議運営要綱</li> <li>松伏町総合教育会議傍聴要綱</li> <li>松伏町総合教育会議傍聴要綱運用基準</li> </ul>	
議事録作成者	企画財政課総合政策担当 主任 福永 将人	

協議又は調整の要旨

議事	発言者	発言内容・決定事項
1 開会	事務局	会議の開会を宣言
2 町長挨拶	町長	町長の挨拶
3 教育長挨拶	教育長	教育長の挨拶
4 協議・調整事項		

会議録署名人の確認	事務局	会議録署名人は、町長部局側で町長と教育委員会側で池田委員の2名となる旨を報告する。
(1) 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査結果について	事務局	協議・調整事項の進行は、会議招集者である町長に依頼する。
	町長（議長）	次第 4 協議・調整事項の(1) 令和7年度埼玉県学力・学習状況調査結果について、事務局より説明を求める。
	事務局	<p>(資料1に基づいて説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>同調査は、平成27年度より実施している調査で、埼玉県教育委員会が県内の公立小・中学校等の児童生徒の学力や学習意欲、生活習慣などを把握するために独自に実施している調査である。</li> <li>調査の目的は、児童・生徒が現在の学力を知り、「どれだけ伸びたか」を実感し、自信を深めることを重視している。また、学力の伸びを継続的に把握し、学校や教員の授業改善に役立てている。</li> <li>調査対象は、さいたま市を除く県内の公立小中学校等に在籍する、小学校第4学年から中学校第3学年までの全児童生徒が対象である。</li> <li>教科に関する調査（国語、算数・数学、英語）と、学習意欲や生活習慣などに関する質問調査が行われた。</li> <li>令和6年度からは、タブレット端末を活用したCBT（Computer Based Testing）方式に全面的に移行した。CBT方式では、解答時間なども把握できるため、児童・生徒の得意・不得意分野を詳細に分析することもできる調査となる。</li> <li>「1. 埼玉県と松伏町の平均正答率の比較」について、どの学年・どの教科においても、埼玉県の平均正答率より下回る結果となっている。特に小学校4年生、中学校1年生において差が大きくみられる。しかし、小学校6年生、中学校3年生は英語以外では、県平均に近づいている。</li> <li>「2. 令和6年度と令和7年度（異なる年度）の過去の同学年との県比較との差」について、小学校6年生では差が縮んだが、他の学年では差が開く結果だった。一部の学年や教科では前年度より改善が見られ、これらの成果につながった取組を広</li> </ul>

げていくことで、今後の全体的な学力向上につなげていきたいと考えている。

・「3. 令和6～7年度の埼玉県と松伏町の同集団の「学力のレベルの平均」と過去の同学年の「学力の伸びの平均」比較」について、「学力のレベル」と「学力の伸び」については、別紙「学力のレベル」と「学力の伸びについて」を確認いただきたい。学力レベルとは、埼玉県学力・学習状況調査では、様々な難易度の問題が出題され、それに対する正答や誤答の状況を見ることで、学力を判断するものである。埼玉県学力・学習状況調査では、学力は、「学力のレベル」で表される。「学力のレベル」は、レベル1からレベル12まであり、各学年の測定は、7レベルの間で行っている。また、それぞれのレベルは、さらに細かく3層(高い順にA→B→C)に分かれており、同じレベルの中でもスモールステップで「学力の伸び」が分かるようになっている。そのため、「学力のレベル」の数字が高ければ高いほど、学力が高いということになる。また、「学力の伸び」とは、年度間の学力レベルの差を「学力の伸び」と捕らえている。前年度の学力レベルが4-Aで、今年度の学力レベルが5-Bであった場合、2つ上がったことになるため、「学力の伸び」は「2」となる。それを踏まえた上で、比較を見ていただきたい。「学力の伸び」は、多くの学年で埼玉県と同等の伸びを見せている。その中でも、中学校3年生の国語は、県よりも学力が伸びている結果となっている。しかし、中学校1年生、中学校3年生の数学・英語は課題となっている。

・「4. 令和6年度と令和7年度(松伏町)過去の同学年の「学力の伸びの平均」の推移(異集団)」について、中学校3年生の英語以外は、伸びが見られた。埼玉県学力・学習状況調査の目的に、児童・生徒が現在の学力を知り、「どれだけ伸びたか」を実感し、自信を深めることを重視している。一人でも多くの児童生徒が伸びを実感できるよう、学校とともに授業改善を図っていく。

		<p>・「5. 令和 7 年度の主体的・対話的で深い学びの実施、学習方略、非認知能力について」、まず、主体的・対話的で深い学びとは、今子ども達が自ら課題を見つけ、他者と協働しながら考えを深めていく学びのことで、学習指導要領に基づき、現在小・中学校で教えている方法となる。学習方略とは、子供が学習効果を高めるために意図的に行う活動（学習方法や態度）であり、記載の①～⑤に分類される。非認知能力とは、テストの点数や偏差値、IQ（知能指数）などといった数値で表せる「認知能力」とは違い、自分の感情をコントロールして行動する力があるなど性格的な特徴のようなものであり、本調査では記載の①～⑤について質問を行っている。これらの能力は、人生を豊かにし、社会で生きていく上で非常に重要であると近年注目されている。埼玉県では、これまでの調査を通して、「主体的・対話的で深い学び」は学習方略、非認知能力の向上を通じて学力を向上させる相関があること、学級経営が、主体的・対話的で深い学びの実現や学習方略、非認知能力の向上に重要であるとの分析結果を公表している。また、今年度の報告書では、授業のはじめに、「その授業でどんな学習をするか」をつかんだ児童生徒ほど、授業の終わりに学んだことを振り返り、「自分がわかったこと・わからなかったこと」を理解する傾向があること、見直しを行う児童生徒は、正答率が高いこと、その見直しを習慣化させるためには、作業方略や自己効力感を高める取り組みが重要であると分析している。本町の結果は、表のとおりとなる。特に、中学校2・3年生では、県平均より上回っている項目が多くみられる。課題は、「作業方略」や「自己効力感」をいかに改善させていくかである。</p>
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・質問等を求める。</li> </ul>
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業方略について、音読など声に出す活動を中心にした学習との関係について伺う。ICTを進める中で、宿題においてタブレット教材を活用しているが、保護者の中には「ノートに書く量が少なく</li> </ul>

		なっているのではないかと感じている方もいる。こうした点と作業方略の調査結果との関係性はあるのか。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>作業方略に関する調査項目について、県の調査では、例えば「勉強するときに参考書や辞典などをすぐ使えるよう準備しているか」「勉強する前に必要な教材を用意しているか」「大切だと思ったところを自分からノートにまとめているか」「重要な内容を繰り返し覚えようとしているか」といった内容が問われている。町としては AI ドリルを導入した後も書くことの重要性は認識しており、紙のドリルと併用する形で活用し、基礎的・基本的な知識と技能を確実に身に付けさせることを重視し始めている。主体的・対話的で深い学びは大切だが、その土台となる知識がなければ学びが難しくなり、学習に参加出来にくくなるため、バランスを重視して指導しているところである。</li> </ul>
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>今回の学力調査は CBT 方式、つまりタブレットでの実施だったが、トラブルはなかったか。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度から実施され、今年度で 2 年目になる。ネットワーク環境も整備しており、大きなトラブルは確認されていない。</li> </ul>
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>非認知能力と学力の関係についての話があった。松伏町の子どもたちは自然の中でのびのび育ち、素直さや協調性は高いように感じる。非認知能力を高める指導に力を入れることが、学力向上のポイントになると考える。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は作業方略や自己効力感に焦点を当て、学力推進協議会等で具体的な取組を現場主体で実践できる方策を模索していきたい。</li> </ul>
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の基本的な流れ、つまり目標提示、課題解決、振り返りという一連のサイクルをどの先生も確実に行うことが大切だと思う。また、タブレット操作への抵抗感を持つ子どももいるかもしれない。便利さの裏にある課題も意識しながら指導してほしい。</li> </ul>
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭環境の影響もあると思う。外国籍の家庭も増</li> </ul>

		え、保護者が日本語に不慣れなケースもある。地域特性を踏まえた支援も必要ではないかと思う。
	構成委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校児童・生徒も今回の学力調査は受けたのか。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在は受験期間が設けられ、教育支援センター等でも受験できる環境を整えている。不登校児童・生徒に対しても引き続き学力把握と支援の両立を図っていきたい。</li> </ul>
	町長	<ul style="list-style-type: none"> <li>皆様の意見を伺いながら感じたことを申し上げる。現在、授業においても学力・学習状況調査においてもタブレットが活用されており、さらにAIの活用についても議論が進んでいる。技術の進歩そのものは大変意義のあるものであり、積極的に取り入れていく姿勢は重要であると考えます。</li> <li>しかしながら、本日の会議においても資料をタブレットで閲覧しているが、画面が一つであるため、複数資料を同時に参照するには不便さを感じる場面がある。紙資料であれば一覧性が高く、複数の資料を広げながら確認できるという利点がある。視野の広さという観点からも、紙の持つ利便性は無視できないものである。</li> <li>国や執行部としてタブレット活用を推進していく方針は理解するが、デジタルのみに依存するのではなく、紙媒体との併用など、バランスを考慮しながら進めることが必要であると考えます。</li> <li>非認知能力について、自己効力感や社会性、やり抜く力、勤勉性といった資質は、AIには代替できない、人間が本来備えている重要な力であると認識している。かつて本町の非認知能力は現在の数値より上回り、最近は低下傾向も見られるとのことである。この要因について、現時点で把握していることがあれば伺いたい。</li> </ul>
	事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>要因を断定することは困難であるが、過去の傾向を見ると、現在の中学1年生のような数値を示す学年はこれまでも存在していた。そして、そのような学年においては、学力面のみならず、生徒指導面における課題も併せて見られることが少なくない。生活習慣や学習習慣の乱れが、学力や非</li> </ul>

		<p>認知能力の数値に影響を及ぼしている可能性はあると捉えている。まずは基本的な生活習慣および学習習慣を整える支援が重要であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• また、要因の一つとして、学校現場においては教職員の年齢構成が変化してきている状況もある。近年は若手教員の割合が増えており、学校全体として世代構成の移行期にあると言える。これは決して否定的に捉えるものではなく、組織として新しい力が加わっている側面もある。</li> <li>• これまで蓄積されてきた指導経験や実践知をいかに組織的に共有し、継承していくかがより重要になっている状況である。</li> </ul>
	教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 教師と子どもとの人間関係は極めて重要であると考えます。子どもは、先生が好きである、授業が楽しい、明日も学校へ行きたいと感じられる環境の中でこそ、意欲的に努力するものである。教師が子どもを大切に思い、子どもが教師を信頼する関係が築かれていることが前提である。</li> <li>• 数値の向上を目標とすることは必要であるが、数値のみを追い求める指導に偏ると、「なぜできないのか」という視点が強くなりがちである。特に若い教員は真面目で責任感が強い分、数値を過度に意識してしまう傾向もあると感じている。</li> <li>• ベテラン教員は、子どもを認め、褒めながら心を引き付け、人間関係を土台として指導を展開する力を有している。その力をいかに継承していくかが重要である。</li> <li>• 私は校長会においても、まずは子どもとの信頼関係を大切にすること、その上で学力向上を図ることを繰り返し伝えている。学力向上の前提として、人間関係づくりがあるという認識のもと、今後取り組んでいく考えである。</li> </ul>
	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 質問等を求める。</li> </ul>
	構成委員	【意見・質問なし】
5 閉会	町長（議長）	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 協議、調整事項について終了する。</li> </ul>
	教育長職務代理人	会議の閉会の挨拶

	事務局	・終了し散会
--	-----	--------

上記記載事項は、令和8年2月18日松伏町役場第二会議室において開催した、令和7年度第2回松伏町総合教育会議の内容を記録したものに相違ないことを認め、ここに署名する。

令和 8 年 3 月 2 3 日

署名人の職・氏名 町長 高野 祐 大

署名人の職・氏名 教育委員 池 田 千恵美